

運 輸 ， 通 信

鉄 道 鉄道による輸送状況は、国鉄、私鉄ともに年々その輸送量を増し、34年中の輸送人員では国鉄（県内各駅扱分）25 000万人、私鉄7 400万人である。このうち65%は定期券による通勤者であつて、東京に近い国電の船橋、千葉、市川、松戸駅に集中しており、益々増加の傾向にある。私鉄は横ばいの状態にあるが、今後沿線の開発が進むに伴い増加するものと思われる。

貨物輸送量も増加の傾向にあるが、私鉄貨物が34年には激減したので注目されるところである。

自 動 車 自動車数は昭和30年には27 816台であつたが34年には66 417台で2.4倍と急速に増加している。なかでも乗用車が30年に比べ3倍も増加して全体の52%を占めている。また貨物自動車も約半数を占め、その輸送力は鉄道輸送の3.4倍である。バスによる輸送は路線の拡張や車の増強で昭和34年1億3千万人を数え、近距離に便利な自動車の利用はますます増加するものと思われる。

通 信 郵便局は340、電報電話局348がある。34年中引受けた普通通常郵便物数は5千9百万通で、県民一人当たり25.7通の割合である。国内電報は452万通で昨年に比べ8万通の減少である。

電話は時代の要求とともに加入者数も近年急激に増加し34年には57 452と前年に比べ20%も増加している。また県内主要都市の電話は大部分自動化されつつある。